

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成17年3月10日(2005.3.10)

【公表番号】特表2000-506005(P2000-506005A)

【公表日】平成12年5月23日(2000.5.23)

【出願番号】特願平9-530180

【国際特許分類第7版】

C 1 2 N 15/09
A 6 1 P 29/00
A 6 1 P 43/00
A 6 1 K 38/00
C 0 7 K 5/00
C 0 7 K 14/705
C 0 7 K 16/28
C 1 2 P 21/02
C 1 2 Q 1/68
G 0 1 N 33/577
// A 6 1 K 31/7088
C 1 2 P 21/08
(C 1 2 P 21/02
C 1 2 R 1:91)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A
A 6 1 K 31/00 6 2 9
A 6 1 K 31/00 6 4 3 E
C 0 7 K 5/00
C 0 7 K 14/705
C 0 7 K 16/28
C 1 2 P 21/02 C
C 1 2 Q 1/68 A
G 0 1 N 33/577 B
A 6 1 K 37/02
A 6 1 K 31/70 6 2 3
C 1 2 P 21/08
C 1 2 P 21/02
C 1 2 R 1:91

【手続補正書】

【提出日】平成12年3月6日(2000.3.6)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成12年 3月 6日

特許庁長官 殿



1. 事件の表示

PCT/US97/01697

平成 9年 特許願 第530180号

2. 補正をする者

名 称 イミュネックス・コーポレーション

3. 代 理 人

住 所 東京都千代田区大手町二丁目2番1号 新大手町ビル206区

ユアサハラ法律特許事務所

電 話 3270-6641~6

氏 名 (8970) 弁理士 社 本 一 夫



4. 補正対象書類名

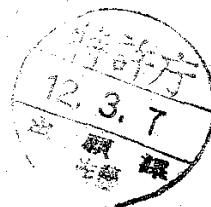
請求の範囲

5. 補正対象項目名

請求の範囲

6. 補正の内容

別紙の通り



(別紙)

請求の範囲を以下の通り補正する。

『

請求の範囲

1. ポリペプチドをコードする単離されたDNAであって、前記ポリペプチドがSEQ ID N0:2の残基-19から522、SEQ ID N0:2の残基1から522、SEQ ID N0:2の残基-19から310、SEQ ID N0:2の残基1から310、SEQ ID N0:4の残基-18から519、SEQ ID N0:4の残基1から519、SEQ ID N0:4の残基-18から307、及びSEQ ID N0:4の残基1から307からなる群から選択されるアミノ酸配列を含む、前記単離されたDNA。
2. SEQ ID N0:2のアミノ酸残基1から310を含むポリペプチドをコードする、請求項1のDNA。
3. SEQ ID N0:1のヌクレオチド1から1626、SEQ ID N0:1のヌクレオチド58から1626、SEQ ID N0:1のヌクレオチド1から985、SEQ ID N0:1のヌクレオチド58から985、SEQ ID N0:3のヌクレオチド381から1994、SEQ ID N0:3のヌクレオチド435から1994、SEQ ID N0:3のヌクレオチド381から1355、及びSEQ ID N0:3のヌクレオチド435から1355からなる群から選択されるヌクレオチド配列を含む、DNA。
4. SEQ ID N0:2の残基1から522、SEQ ID N0:2の残基1から310、SEQ ID N0:4の残基1から307及びSEQ ID N0:4の残基1から519からなる群から選択される配列と少なくとも80%同一であるアミノ酸配列を含むポリペプチドであって、生物学的活性を有するポリペプチドをコードするDNA。
5. ポリペプチドをコードするDNAであって、前記ポリペプチドが、以下の
 - a) SEQ ID N0:2の1から297及び299から522のアミノ酸、但し、前記ポリペプチドはSEQ ID N0:2の位置298の残基を欠いている；
 - b) SEQ ID N0:2の1から297及び299から310のアミノ酸、但し、前記ポリペプチドはSEQ ID N0:2の位置298の残基を欠いている；からなる群から選択されるアミノ酸の配列を含む、前記DNA。
6. ポリペプチドをコードする単離されたDNAであって、前記DNAが非常に厳

しい条件下で請求項3のDNAとハイブリダイズすることができるDNAの相補体であり、前記ポリペプチドがプロスタグラジン合成を阻害することができる、前記単離されたDNA。

7. SEQ ID N0:2の残基1から310の配列と少なくとも80%同一であるアミノ酸配列を含むポリペプチドをコードするDNA。

8. SEQ ID N0:2のアミノ酸残基1から310を含むポリペプチドの断片をコードするDNA。

9. 請求項1ないし8のいずれか1項のDNAを含む発現ベクター。

10. ポリペプチドの発現を促進する条件下、請求項9のベクターで形質転換した宿主細胞を培養することを含む、ポリペプチドを調製する方法。

11. SEQ ID N0:2の残基-19から522、SEQ ID N0:2の残基1から522、SEQ ID N0:2の残基-19から310、SEQ ID N0:2の残基1から310、SEQ ID N0:4の残基-18から519、SEQ ID N0:4の残基1から519、SEQ ID N0:4の残基-18から307、及びSEQ ID N0:4の残基1から307からなる群から選択されるアミノ酸配列を含む、精製ポリペプチド。

12. SEQ ID N0:2の残基1から310のアミノ酸配列を含むポリペプチド。

13. SEQ ID N0:2の残基1から522及びSEQ ID N0:4の残基1から519からなる群から選択される配列と少なくとも80%同一であるアミノ酸配列を含む、ポリペプチド。

14. 以下の

a) SEQ ID N0:2の1から297及び299から522のアミノ酸、但し、前記ポリペプチドはSEQ ID N0:2の位置298の残基を欠いている；

b) SEQ ID N0:2の1から297及び299から310のアミノ酸、但し、前記ポリペプチドはSEQ ID N0:2の位置298の残基を欠いている；

からなる群から選択されるアミノ酸の配列を含むポリペプチド。

15. 請求項6のDNAによってコードされるポリペプチド。

16. SEQ ID N0:2の残基1から310の配列と少なくとも80%同一であるアミノ酸配列を含むポリペプチド。

17. a) SEQ ID N0:2のポリペプチドの細胞外ドメイン、及び、

b) プロスタグラニン合成を阻害することができる、前記細胞外ドメインの断片

からなる群から選択されるポリペプチド。

18. 請求項11ないし16のいずれか1項のポリペプチドに対する抗体。

19. モノクローナル抗体である、請求項18の抗体。

20. 効果的な量の請求項11ないし16のいずれか1項のポリペプチド、及び適した希釈剤あるいは担体を含む薬剤組成物。

21. 哺乳動物中のプロスタグラニン合成を阻害する方法に使用される、請求項20の薬剤組成物。

22. 炎症状態にある哺乳動物中の炎症を軽減する方法に使用される、請求項20の薬剤組成物。

』